

課題名 (タイトル) :

化学気候モデルを用いた天体活動の地球大気への影響に関する研究

利用者氏名 : ○秋吉英治

所属 : 望月雪氷宇宙科学研究ユニット

1. 本課題の研究の背景、目的、関係するプロジェクトとの関係	ムの違い、妥当性等) に時間を要し、本年度は利用できなかった。
天体活動による宇宙線 (例えば、ソーラープロトンイベントや超新星爆発による X 線、ガンマ線) の地球大気への影響を明らかにするため、これらの影響を取り入れ、かつ地表までの 3 次元大気の大気微量成分分布と気温・風等の変化を計算できる化学気候モデルを開発し、影響の数値計算を行う。これによって、天体活動の地球環境に直接影響する下層大気への影響を定量的に見積もることができる。望月雪氷宇宙科学研究ユニットで行っている氷床コアの硝酸イオン濃度解析と連携している。	
2. 具体的な利用内容、計算方法 なし	
3. 結果 なし	
4. まとめ なし	
5. 今後の計画・展望 調査および検討を進めた太陽プロトンイベントによる上層大気中の NO _x および O _x の増加量を初期値とする計算を行い、南極および北極上空の硝酸濃度増加の影響を見積もる。	
6. 利用がなかった場合の理由 国立環境研究所のスパコンを用いて 2003 年の条件で計算を行った化学気候モデルの NO _x および O _x のアウトプットを初期値として、理研のボックス化学モデルで計算を行ったところ、初期の段階でこれらの濃度のドリフトが若干見られた。その原因の調査と検討 (両モデルの化学計算スキ-	